

令和5年3月6日

皆さんおはようございます。

今年の冬は10年に一度といわれる大寒波が日本列島を襲い、各地で大雪被害などをもたらしました。本市でも1月末の寒波により、水道管破裂などが発生しましたが、大きな被害までには至らず安堵しております。今日3月6日は、二十四節気と言う啓蟄であり、七十二候では蟄虫啓戸（すごもりむしとをひらく）にあたります。土の中で眠っていた虫たちが目覚め、活動を始めるころとなりました。これからは日ごとに暖かい春の日差しが感じられることと思っております。

令和5年3月議会定例会をお願いいたしましたところ、議員各位におかれましてはご多用中にもかかわらずご参集いただき、誠にありがとうございます。

今議会に提案をいたしております議案は52件であります。提案理由の説明に先立ちまして、諸般の報告と新年度における施策の概要等について述べさせていただきます。

まず、新型コロナウイルス感染拡大やエネルギー価格・物価高騰に伴う2月27日現在の市独自となる経済対策の実施状況についてであります。

中小企業向けの特定事業者継続支援金につきましては、14件、1,257万円を支給しております。雇用調整助成金に3%上乗せして支給している雇用安定助成金につきましては、25社、173件、252万円を支給、省エネ設備へ更新する中小企業等省エネ設備更新支援事業につきましては、30事業所、824万円を補助しております。

また、昨年8月から12月末まで実施しました地域活性化×梁（かけはし）商品券事業であります。市民一人当たり3,000円、総額8千312万4,000円の商品券を配布したところであります。産業連関表などに基づく試算としまして、1.5倍の約1億2千万円の経済効果があったものと考えております。

市では、エネルギー価格・物価高騰における地域経済の活性化及び雇用維持を図るため、今年度から来年度へ住宅リフォーム事業や国・県事業を併せまして地域経済対策事業を引き続き実施してまいりたいと考えております。

続いて、農業者を対象とした支援制度の実施状況についてであります。

まず、農業収入が20%減少した農業者を対象とした新型コロナ対策応援金に

つきましては、40件、400万円を支給しております。農業者の営農負担を軽減するために設けた農業者等原油価格・物価高騰対策緊急支援金につきましては、235件、1,210万円を支給しております。

畜産農家の営農負担を軽減するために設けた畜産飼料高騰対策支援金については、32件、2,039万円を支給しております。

今後とも、農業者の営農負担の軽減や生産意欲の向上を図るため、必要に応じて農業者支援を行ってまいりたいと考えております。

次に、観光についてであります。

吹屋地区では、観光客の利便性と回遊性向上を図ることを目的として、4月以降のできるだけ早い時期から、一昨年市街地で実証運行をしましたグリーンスローモビリティを2台導入します。無料でご乗車いただけるエコでユニークな乗り物を、ぜひ多くの方にご利用いただきたいと思いますと考えております。

また、岡山桃太郎空港に台湾線が開通することや、新型コロナ対策の緩和などによりましてインバウンドによる観光交流が、昨年にも増して多くの方に高梁市を訪れていただくことが期待されるところであります。空路や鉄道を利用して本市にお越しいただく皆さんの、利便性向上と本市のポテンシャルを高めるため、空港から備中高梁駅を経由して吹屋に至る直行バスの実証運行を引き続き実施いたします。なお、新年度におきましては、吉備中央町及び新見市とも連携し路線の設定などを行い、将来的な在り方を探っていきたいと考えております。

続きまして、1月20日～7月19日まで吹屋で開催されておりますゲームアプリ「ポケモンGO」の状況についてご説明いたします。冬の時期には観光客が少なくなる吹屋地区ですが、今年の冬の土日には観光駐車場が満車に近いほどの賑わいを見せており、全国CM等による誘客効果を実感しております。ポケモン効果で家族連れも目立つようになり、旧吹屋小学校への入館者も子どもさんの割合が増えてきているのも現実であります。これを、次の吹屋地区への誘客に結び付けていかななくてはならないと考えております。

次に、JR西日本の「WEST EXPRESS 銀河」についてであります。これまで3期にわたって「WEST EXPRESS 銀河」号が伯備線を経由し出雲市まで運転されてきましたが、4月5日から4たび山陰ルートの運行が開始され、備中高梁駅でのおもてなしを行うこととしております。約4か月間の運行となりますが、これまでの3回の運行時のおもてなしなどにより、リピ

ーターの方が多く高梁を訪れていただいたところでもあります。引き続き、地域の皆様や近隣市町村とも連携し、再び訪れたい町とするためにも、市民の皆様も一緒になっておもてなしイベントにご参加、お出迎えをお願いしたいと思います。

同じく鉄道の話題としまして、来年の春以降に新型車両導入が発表されております特急「やくも」号についてであります。昨年1編成が旧国鉄時代のボディカラーに変更されて運行が始まっておりますが、先月からは「スーパーやくも」と名乗っていた時代の紫色の編成も運行を開始しております。高梁市の鉄道沿線には多くのカメラマンが訪れております。特にこれからの桜の時期には、昨年を上回る人出が予想される所であり、地域の皆様を中心となってJRや市とも連携しながら、簡易トイレの設置や駐車場の確保、看板の設置などを行い、マナー啓発とおもてなしを実施することとしております。

次に、都市計画マスタープランについてであります。

都市計画マスタープランは、概ね10年間の都市計画の骨格をお示しするので、本市の将来のまちづくりの基本方針を明確にすることを目的に平成27年3月に素案策定を行ってまいりました。

同時に策定を始めました立地適正化計画は、都市計画マスタープランの一部であります。平成30年7月豪雨災害を受けて計画を見直すこととなり、策定が遅れ昨年度末に完成したところであります。これを受け、本年度都市計画マスタープランの最終調整を図るものであります。現在、高梁市都市計画審議会におきまして審議をいただいております。本年度末の策定完了に向けて作業を進めているところであります。

次に、下原中央団地及び下原定住住宅についてであります。

成羽町下原の旧鶴鳴保育園跡地に10区画の造成をいたしました分譲宅地が完成をいたしました。販売は新年度からを予定しております。また、そのうち1区画に建設を予定しております下原定住住宅の入居につきましては、3月20日から入居者の公募を開始する予定としております。

次に、学童保育の運営についてであります。

学童保育は、働く親にとっても子どもにとっても、なくてはならないサービスであり、全ての小学校区で実施しております。

現在、市の直営で運営している学童保育が7か所、地元運営委員会などに運営を委託している学童保育が8か所ございますが、このうち特に直営の学童保

育につきましては、支援員の採用、確保に大変苦勞している状況が続いております。

また、年々支援員の平均年齢が高齢化してきている状況を踏まえ、学童保育の安定的なサービス提供に向けた検討を進めていく時期にきていると考えております。

今後、学童保育の安定した運営を継続していくためには、どのような方法が適切なのか、他市の事例等を参考にしながら、民間事業者への運営委託も含め、支援員確保に繋がる様々な方策の研究、検討を始めてまいりたいと考えております。

次に、3市町の連携についてであります。

去る2月22日、吉備中央町において、岡山県の3県民局立会いの下、高梁市、美咲町、吉備中央町3市町の連携について発表をいたしました。

この日は、2町のベビーファースト宣言の表明と合わせて行い、2町のベビーファースト運動への参画と、先行自治体として関わった本市が提案したことを契機として、かねてから検討を進めていた3市町の連携を推進する運びとなったところであります。

令和2年国勢調査において人口減少率が県内ワーストスリーとなった3市町であります。人口減少対策やまちづくりに関わる諸課題について連携を図ることで、より効果が得られる事業について共同で取り組むこととし、今後様々な事業展開について協議してまいります。

次に、高梁市斎場についてであります。

現在の施設は平成3年に供用開始し、32年が経過しております。一般的に火葬場建物の更新は40年から45年でなされており、また計画策定から供用開始まで6年から10年程度かかることから、新年度から新斎場の整備について本格的な検討を進めてまいりたいと考えております。

次に、ごみ収集の有料化についてであります。

本市では、合併以後、県下15市中、唯一、家庭ごみについて無料収集を続けてきたところであります。

これまで、ごみの減量化、資源化を推進してまいりましたが、家庭ごみの一人当たりの排出量が減らないという状況が続いております。このため、近年、議会のおきましても申しあげてまいりましたが、資源化の取り組みとともに、ごみ収集の有料化についてその手法を含め、より具体的な検討を進めてまいり

いと考えております。

新斎場整備、ごみの有料化の検討にあたっては、議会へのご報告、また住民説明等慎重に進めてまいりたいと考えますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

次に、落合幼稚園閉園に関連して、社会福祉法人 梁和会が進めておられる「おちあいこども園（仮称）」についてであります。

物価上昇による建設費の高騰など非常に厳しい状況下においても、令和6年度の開園を目指しておられますことを、先の12月議会でお伝えしたところがあります。その後も引き続き検討を重ねられ、建設計画を固められた上で、予定通りの開園に向けて動き出されていることをご報告させていただきます。

次に、「愛らぶ高梁ふれあいマラソン」についてであります。

去る2月12日に、第44回目となる「市民健康づくり 愛らぶ高梁ふれあいマラソン」が3年ぶりに開催されました。

好天のもと、市内外から675人が参加され、情緒ある高梁のまちなみを楽しみながら走っていただくことができました。

また、高梁ならではの沿道の温かい応援やゴール地点でのおもてなしは、参加いただいた皆さまから高い評価を得ることができました。

大会の運営にあたりましては、スポーツ協会をはじめボランティアスタッフや関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。

次に、本市のマイナンバーカード交付及び活用についてであります。国においては、マイナンバーカードの交付率によって、普通交付税上の算定基礎に加算するという方向が出されたところがあります。これは、カードの交付率が上がることにより、様々な自治体独自のマイナカードを活用した事業展開が多くなることにより、住民の利便性の向上やサービスの多様性が期待されることなどを想定したものであります。本市におきましても、出産子育て応援金の中で、出生届出後の10万円給付のうち5万円分につきましては、マイナンバーカードを活用した還元型でのポイント付与を予定しております。もちろん、カードを取得されていない方に対しましては他の方法により同等の支援措置を講じることとしております。

本市の2月19日現在のマイナンバーカードの取得等の状況ですが、申請は22,820枚、率にして80.17%。交付は20,024枚、率は70.34%となっております。

マイナンバーカードの普及促進の一環として、去る1月27日に、吉備中央町と共同して高梁中央病院の一角をお借りして出張交付申請を行いました。当日は15人、吉備中央町は2人の方が申請を行われました。また、来る3月9日には成羽病院でも開設をいたします。今後も様々な場面を通じてマイナンバーカードの取得向上を図り、更なる住民サービスにつなげてまいりたいと考えております。合わせて、この取り組みが全国的にも事例が無いということで、総務省のホームページに近々に掲載される予定と伺っております。

最後に、新年度におきまして、市役所の組織・機構の考え方につきまして、ご報告させていただきます。

1点目は、移住・定住対策を総合的に進める観点から、移住・定住推進担当の政策監を置くことといたします。

本市の重点施策である移住・定住につきまして、新たに設置する移住・定住推進担当の政策監の下で、子育て支援策はもとより、空き家対策や住宅政策、人材育成などすべての分野で移住・定住に精通した担当を配置し、関係課と連携し推進していくことといたします。

2点目は、総務課に人財育成係及び感動担当職員を配置いたします。

係名の人財の「財」は財産のザイの字をあてております。これは、職員の人材確保環境が年々厳しさを増していく中で、職員を市役所の「財産」と位置づけ、専門職をはじめとする職員の採用、職位・職域に応じた研修による職員の育成、適正な人事評価制度の運用等に重点的に取り組んでいくため、新たに人財育成係を設置し対応してまいります。合わせて、同係に感動担当職員を配置し、「感動が人を動かし、出逢いが人を変える」というコンセプトのもと、職員の市に対するエンゲージメント（組織に対する愛着）を一層高める取り組みを推進してまいります。

3点目は、現在ある観光課と日本遺産・歴まち推進室を統合し、観光課内に日本遺産・歴まち推進係を設けます。これからのインバウンド観光、観光交流人口の増加に向け、日本遺産を活用した観光事業を一体的に取り組む必要があるとそういう観点からこれを一つにするものです。

4点目は都市整備課建築営繕室を土木部建築営繕室といたします。今後の新消防庁舎や高梁認定こども園などの大型建設事業の実施に備え、体制を強化し、引き続き建築工事等の設計、施工、監理を担当してまいります。

5点目は成羽病院事務局に医事係を設置いたします。

現在ある成羽病院事務局の総務係と経営企画係を再編し、総務係と医事係を設け、病院経営に重要な医療事務を独立させることで経営体制の強化を図ってまいります。

以上、ご報告とさせていただきます。

それでは、新年度における施策の概要につきまして、令和5年度の予算編成の基本的な考え方を申しあげます。

令和3年4月にスタートした高梁市総合計画前期基本計画の折り返しの年度となる中、総合計画に掲げる「健幸都市たかはし」の実現に向けて、まちづくりの5つの基本方針と横断的施策である、「人口減少対策」、「防災力の向上」、「未来革新技术の活用」に基づく取り組みを引き続き進めてまいります。さらに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策、国際情勢や円安の進行などによる、原油を始めとしたエネルギー・原材料の物価高騰に対する地域経済の発展に資する施策、市民サービス向上のための行政手続きや行政システムにおけるデジタル化の推進施策などにも予算の配分に努めたところであります。

また、「ベビーファースト宣言」に伴い、子育て世代が子どもを産み育てたくなる社会を実現するための施策や、「ゼロカーボンシティ宣言」に伴う温暖化対策に資する予算、また観光交流やシティプロモーションなど情報発信の強化についても、今取り組まなければならない課題について、重点的に配分したところであります。

一方、本市の財政状況は、「平成30年7月豪雨」の災害等に伴い減少した基金残高は依然として低水準のままであるうえ、合併特例措置の終了に伴う普通交付税の減少に加え、新型コロナウイルス感染症の地域経済への影響や人口減少等により市税等の減収が見込まれるなど、依然として厳しい財政見通しとなっています。

こうした状況ではありますが、令和5年度は、平成30年7月豪雨災害からの復興、また「Beyondコロナ時代」を見据えた『リスタートの年』と位置づけ、「健幸都市たかはし」の実現に向け、「子育てするなら高梁市」を目指したまちをつくることを基本に予算編成を行ったところであります。

主な事業につきまして、当初予算主要施策の項目に沿ってご説明いたします。

1つ目の政策であります、『地域産業・地域資源を活かした活力あるまち』の中で、農林水産業の振興では、新規就農総合対策事業として就農奨励金の拡充を図るとともに、引き続き、トマト、ぶどうの生産拡大を進める資機材への支援や人農地プランの推進により農業振興を進めます。

次に、農山村の振興では、令和6年度から森林環境税が個人住民税に賦課されるにあたり、従来の森林調査に加え、森林環境譲与税を活用した「森づくり事業」として、森林整備をする高性能機械購入等への支援を行います。また、「森と学ぼうSDGsプロジェクト事業」として、学校での森林環境教育を進めながら、学校施設及び教室の収納棚、書架等の木材を活用した設備等の整備を行うとともに、「木質バイオマス安定供給支援事業」として、旧ゆらら跡地に整備されています木質バイオマス発電への木材の集積を図るため、搬入木材に対して補助金を交付します。

「有害鳥獣被害防止対策事業」では、新たにICTを活用したスマート捕獲アプリシステムの試験導入を行います。

商工業の振興では、「住宅リフォーム事業」として、昨年に引き続き、「新しい生活様式」の実現による住環境の向上と地域経済の活性化を図るとともに、森林環境譲与税を活用し、国産材利用への上乗せを行い、助成を拡充します。また、地場産業の振興と企業誘致の中で、有漢工業団地第2期工事の造成等を行い、地域経済の発展や雇用確保に努めてまいります。

新たな産業の創出と雇用環境の改善では、「サテライトオフィス等整備事業」として、企業等が空き店舗や空き家等を活用して実施するテレワーク環境整備への助成等、新たな働き方を支援してまいります。

観光の振興では、旧吹屋小学校のオープンから1年が経過する中、インバウンドや都市圏などからの誘客のため、近隣市町との連携を付加し、本年度に引き続き、「空港からの直行バスの試験運行」を行います。また、観光プロモーションや吹屋小学校での各種イベント、アジア圏への積極的なプロモーションを進めるなど、訪日観光客獲得に向けた「インバウンド誘客事業」を行います。

「古民家再生事業」として、2棟目となる1棟貸の宿泊施設の整備に向けた実施設計を行い、吹屋地区での滞在型観光の充実により誘客を図ります。

2つ目の政策であります、『美しい自然環境と快適な生活基盤が調和した安心・安全のまち』の中で、環境保全対策の推進であります。

ゼロカーボン運動の取り組みとして、「脱炭素社会推進事業」では、従来の電気自動車の購入補助に加えて、家庭での充電設備への補助金を創設します。ま



た、「再生可能エネルギー導入計画策定事業」として、昨年3月に策定した環境基本計画に基づき、脱炭素社会構築に向けた本市の適切な再生可能エネルギー導入目標などの検討を進めてまいります。

生活安全対策の充実では、「犯罪被害者等支援事業」や「防犯機能付電話機設置促進事業」を引き続き行い、地域の防犯対策と消費者保護対策の充実を図ってまいります。

次に、都市機能の維持・確保であります。「老朽危険建物除却事業」として、人口減少や高齢化等による空き家の増加を踏まえ、景観や安全な地域の確保のため、補助上限額を引き上げ実施します。

社会インフラの充実では、道路や橋梁、都市計画街路、上下水道の整備などにより、引き続き市民生活を支える基盤整備を図りますとともに、「歴史的町並み環境整備事業」として、道路の無電柱化を進めるための計画を策定します。また、「街並み環境整備事業」として、美しい景観の形成や良好な住環境の整備を図るため道路の美装化を行います。

3つ目の政策であります、『心のつながりを大切に支え合い助け合う健康のまち』の中で、健康づくりの推進であります。

「セルフ健康チェック推進事業」として、自宅でできるセルフ健康チェックサービスを実施し、若年層の健康に対する意識付けを推進します。また、母子の健康づくりとして、「不妊症・不育症対策支援事業」を引き続き行い、一人でも多くの方の妊娠、出産を支援するとともに、妊婦の初回産科受診費用の助成を新設する等、母子保健事業を進め子育て世代包括支援センターを拠点に妊娠期から子育て期における切れ目のない支援を行ってまいります。

地域包括ケアシステムの推進では、「介護医療人材確保等対策事業」として、市内介護事業所と連携し、介護人材の確保と市内への就業を図るため、介護福祉士の資格取得への支援のほか、復職への支援や業務効率化等に取り組む介護事業所に対して支援を行ってまいります。また、「IT推進化・職員負担軽減事業」として、介護現場での人材不足の解消と業務の負担軽減を図るため、特別養護老人ホーム鶴寿荘に介護報酬請求、介護記録などを一体的に管理するシステムを導入します。

地域医療体制の充実では、「介護医療人材確保等対策事業」として、先程の介護人材の確保対策と同じく、市内医療機関と連携し、看護師等の資格取得への支援のほか、復職への支援や業務効率化への支援を行ってまいります。次に、「医療・介護地域ネットワーク構築事業」として、医療・介護等の実務者同士をICTの活用で連携する地域ネットワークを構築し、業務の効率化を図ると

ともに、切れ目のない医療介護サービスを提供してまいります。

感染症対策の推進では、新型コロナウイルスの感染拡大防止を図るための予防対策や新しい生活様式の実践など、引き続き感染症対策に努めてまいります。

子育て支援の充実では、「子育て応援チケット事業」として、産後ケア、ファミリーサポートなどといったサービス事業で利用できるチケットを配布し、子育ての負担を軽減します。「出産・子育て応援金事業」として、本年度から始まった国の制度で、妊娠時に5万円、出生で5万円を支給するものであります。また、市独自の支援として、出生時に5万円上乗せ給付を行い10万円給付とし、内5万円分についてはポイントでの給付を行います。また、「出産・子育て応援事業（おむつ支援事業）」も、出産子育ての支援として行う市独自の事業であり、保護者の経済的な負担軽減と保育園での負担軽減を図るため、保育園等でおむつを支給いたします。

「高梁認定こども園施設整備」では、建築工事に入りますが、全体事業費は令和5年度から6年度の2か年で、総額約34億円の事業費を予定しており、令和5年度予算では、16億9,448万5千円を計上しております。また、民間の法人が実施をする落合こども園整備に対しまして、市からの補助金として2億7,779万5千円を計上しております。

ベビーファースト宣言関連事業として、「こどもスタンプラリー事業」では、高梁市、美咲町、吉備中央町と連携し、地域振興や交流人口の増加を目指し、子どもの遊び場等をめぐるスタンプラリーを実施いたします。

また、子どもが生まれ育った環境によって左右されることのないよう、「子どもの貧困対策事業」として、準要保護世帯に対して高校の受験料等に対する費用の支援や、養育費の取り決めに係る公正証書等の作成する支援、並びに子ども食堂運営に対する支援を実施いたします。

次に、障害者（児）福祉の充実であります。「障害者就労施設等応援事業」として、障害者の雇用拡大に向け、体制の構築と働く場の確保を支援するため、障害者就労施設整備への助成を行います。

4つ目の政策であります、『たくましく豊かな心を未来へつなぐ学びのまち』の中で、学校教育の充実であります。

「高校魅力化事業」では、少子化により市内の県立高校の存続が危ぶまれる中、高等学校の魅力化と教育体制の継続による地方創生を実現するため、広報活動や部活動への支援等を実施いたします。

教育体制・環境の整備では、「有漢義務教育学校施設整備事業」として、建築工事に着手いたしますが、令和5年度、6年度の2か年で総額約12億6千万円

の事業費を予定しており、令和5年度予算では6億2,623万5千円を計上しております。

文化財の保存と活用では、「吉岡銅山関連遺跡調査事業」として、国史跡指定に向けた調査及び研究を引き続き行います。

スポーツの振興では、「ヒルクライムチャレンジシリーズ グランフوند高梁開催事業」として衣替えを行い、令和5年度は、市内全域を対象としたサイクリングルートを、参加者ごとのペースで走行するイベントを開催します。

今後は、10月の第1日曜日を高梁市の自転車の日と位置付け、サイクリング形式のものや、昨年まで開催してきたレース形式のものなど、毎年何らかの自転車のイベントを開催していきたいと考えております。

多文化共生社会の実現では、コロナ禍で中断していた、米国トロイ市、フランス・アンペール高校との派遣・交流事業の再開を予定しており、国際感覚豊かな人づくりを進めるとともに、市内在住の外国人との交流を図り、国籍や民族等の異なる人々がお互いの文化的違いを認め、ともに生きていく多文化共生のまちづくりを推進してまいります。

5つ目の政策であります、『多様な主体との連携・協働による持続可能なまち』の中で、学園文化都市づくりの推進では、「魅力ある大学づくり支援事業」として、順正学園への支援を継続し、学生の確保に努めてまいります。

また、「山田方谷顕彰・啓発事業」では、引き続き大河ドラマ化に向けたPR活動等を行うとともに、企業版ふるさと納税を活用した事業展開を図ってまいります。

時代に対応した行政経営の確立では、職員研修として引き続き、管理職研修やeラーニング研修を行い、職員の能力向上と能力を生かせる仕組みづくりに取り組んでまいります。また、公共施設等の適正管理と市有財産の有効活用の中で、「高梁国際ホテル整備検討事業」として、老朽化が進む高梁国際ホテルの大規模修繕に対応するため、その基礎調査等を行うこととしております。

6つ目の政策である『横断的政策』のうち重点施策であります人口減少対策の中で、定住・移住の促進であります。

「シティプロモーション推進事業」として、本年度電子雑誌「旅色」とのタイアップ事業や、CM動画コンテストの開催など、本市のブランドイメージの向上に取り組んだところでありますが、令和5年度におきましても、認知度の向上、交流・関係人口の拡大や移住・定住の促進、シビックプライドの醸成などに向け、引き続きシティプロモーション戦略に基づく、シティプロモーション

事業に取り組んでまいります。

都市部からの人の流れの拡大に向け、「保育園留学事業」として、コロナ禍において、地方へのワーケーション等が拡大する中、都市圏等の未就学児のいる家庭が、2週間程度市内に滞在し、親のワーケーションとともに、子供を市内の保育園に通わせ、自然にふれあいながら過ごせる、「暮らし体験型保育サービス」を新たに実施いたします。

また、若い世代の定住促進強化でも、引き続き定住促進に向けた支援や分譲宅地などの整備に取り組んでまいります。

防災対策の強化では、未曾有の災害となりました平成30年7月豪雨災害から5年目を迎える中、あらためて地域防災力の向上への取り組みはもちろんのこと、ハード面では、落合雨水ポンプ場の整備工事に着手をするほか、道路や河川、ため池、林地等の災害予防対策などを進めてまいります。

また、「新消防庁舎整備」では、令和5年度、令和6年度の2か年で総額約30億9千万円を予定しており、令和5年度分としまして17億9,011万円を計上しております。

「消防団処遇改善事業」として、先般の全員協議会でもご報告したとおり、地域の消防防災体制の中核的役割を果たす、消防団の団員数が全国的に減少する中、消防団員の確保を進めるため、団員の処遇改善を行うこととしております。

未来革新技術の活用では、引き続き、デジタル化により業務の効率化を推進するため、外部デジタル人材の活用などにより、行政手続きのオンライン化等を進めるとともに、マイナンバーカードの普及、デジタルトランスフォーメーションの取り組みを進めてまいります。

こうした予算編成によりまして、令和5年度一般会計予算は、前年度当初予算に比べ29億円、率にして11.5%増の282億2,000万円となりました。

増加の主な要因でございますが、高梁認定こども園、新消防庁舎、有漢義務教育学校の建設に伴う普通建設事業の大幅な伸びや、昨今の物価高騰等による経常経費の増加等が要因としてあげられます。

特別会計予算は、前年度に比べ1億4,229万円、率にして1.4%増の104億307万円余となりました。

また、病院事業や水道、下水道事業の公営企業会計予算ですが、全体で前年度に比べ12億2,787万円余、率にして22.7%増の66億3,320万円余となりました。これは、川上診療所等の成羽病院への附属化に伴う病院事業会計の増などによるものであります。

一般会計の歳入でございますが、市税につきましては、市民税法人税割などで減額を見込む一方で、固定資産税などで増額を見込み、前年度に比べ全体で0.3%、1,301万円余の増、37億9,854万円余を見込んだところであります。

地方交付税につきましては、国の地方財政対策等を勘案し、1.9%、2億円減の101億円を見込んだところであります。

国庫支出金は、高梁認定こども園施設整備に対する補助金の増などにより、8.5%、2億5,295万円余の増、32億4,182万円余を見込んでおります。

市債につきましては、合併特例事業債の発行予定額が大幅に増額になることにより、71.9%、24億6,670万円増の58億9,960万円を見込んでおります。

繰入金は、大規模事業に充当している開発事業基金繰入金などが増加したことから、24.6%、3億606万円余増の15億5,068万円余を見込んだところであります。なお、財政調整基金の取崩しは財源不足に対応するものとして2億1,400万円を取り崩すこととしております。

続いて歳出でございますが、各性質別の増額要因といたしましては、人件費が昨年の人勧などによる給与改定や、消防団員の報酬改定などにより7,909万円、率にして1.7%増の46億8,796万円余となっております。

普通建設事業は、高梁認定こども園整備や新消防庁舎整備、有漢義務教育学校などの合併特例事業の建築工事が始まることや、建築資材の高騰などの影響などにより32億1,285万円余、率にして73.5%増の75億8,384万円余となっております。

物件費では、これまで私会計で行ってございました学校給食の会計が、令和5年度からの公会計化に伴い一般会計へ編入されることなどにより、1億80万円余、率にして3.0%増の34億4,743万円余となっております。

次に、減額要因といたしまして、災害復旧事業が過年度災害復旧事業の減によりまして、2億2,766万円余、率にして34.0%減の4億4,113万円余となっております。

以上、令和5年度の当初予算編成の考え方、また概要について述べさせていただきました。